

ファーストペンギン通信

第17号
発行日
令和3年10月11日（月）
発行人
八王子実践中学校
中学部長 石川敦史

2021八王子私学プレコンに 本校1年生が出場



誰でも無理なく簡単に…
ヘアドネーションの輪を広げよう

八王子実践中学校
1年生 川上恵澄

10月2日（土）午後6時から市内の会場で、八王子市内、8つの私立中学校の代表生徒がプレゼンテーションを行い、その様子がオンラインで配信されました。

本校からは1年生の川上恵澄（かわかみけいと）さんが出場しました。テーマは「ヘアドネーション」です。

ヘアドネーションとは

皆さん、ご存知ですか。「頭髪に悩みを抱える方の医療用ウィッグ

制作のために自身の髪の毛を寄付すること」です。実は、川上さんは二分の一成入式（10歳時）が終わったときにそれまで長く伸ばしていた髪を寄付したのです。

お母さんからこの寄付のことを聞いた川上さんは自分で調べ始めました。同じくらいの年齢の子どもたちが病気などで髪の毛が抜け、悩んでいると知り、衝撃を受けたのです。幸いなことにその時の髪は31cm以上あり寄付することができました。

ウィッグはどのように作られるのでしょうか

「ジャーダック」という団体がこの活動をしていて、現在までに517個のウィッグを制作しています。1個作るのに30～50人分の髪の毛が必要で、その制作費もかなりの額を寄付にたよっているそうです。

今そのウィッグを待つ子供が307人もいますが、寄付できる髪の毛の長さにするためには、最低でも3ヶ月はかかります。男性の方や、女性でも職業柄、髪を長くできない方々もいらっしゃいます。寄付できる人の数は本当に限られているのです。

この輪を広げる方法は

多くの方々にこの活動について知ってもらい、多くのウィッグを作る方法がないかと川上さんは考えました。

①ヘアドネーション寄付機能付き自動販売機です。コカ・コーラボトラーズジャパンが趣旨に共鳴して制作されたそうです。これなら、ジュースなどを買う

ことで、ヘアドネーションに協力できます。

今、川上さんは学校にこの自販機を置くための活動を始めています。

②ヘアドネーション同好会を学校に立ち上げて、校内から外にこの輪を広げていく。

③この運動を八王子実践中学校高等学校だけでなく、八王子市内の学校に広める。

最後に、「ジャーダック」からこのウィッグを贈られた子供たちの感想を教えてください。加えて、ヘアドネーションだけでなく、もっと多様性が認められ、髪がないことも個性の一つと考えられる社会の実現ということまで考えています。

髪を寄付する以外の方法

JHD&Cとコカ・コーラボトラーズ
コラボレーション

チャリティバンダー
（寄付機能付き自動販売機）



誰でも無理なく簡単にできる

ぜひ八王子実践中学校、そして八王子市内に設置を！

審査の結果

奨励賞をいただきました。審査員からは「ヘアドネーション」という言葉を初めてお聞きしました。こういう制度があることをもっと多くの人が知れば、より多くの子供たちがウィッグを受け取れるようになります。

そのためにも、川上さんにはこの運動を広めていただけるように応援したいと思います。」

というコメントをいただきました。

私達もこの活動のために何ができるとして考えていきたいと思っています。

最後に

JHD&Cからウィッグを受け取った子どもたちの感想

「ウィッグのお陰で気軽に外出できるようになった」
「ウィッグをつけたことで、周囲の目が気にならなくなった」
「学校でも明るく振る舞えるようになった」

「髪がない」ことも個性として受け入れられる、
Diversity（＝多様性）社会をつくるのが大切

～ Diversityがテーマの八王子実践中で多様性の大切さを勉強！～